

TOKIWA

2023

AUTUMN

vol.213

INTERVIEW

「灯台のような施設」— ときわ園への期待



今回の広報誌「TOKIWA」秋号では、淑徳大学総合福祉学部教授の西尾孝司先生にインタビューしました。

— 西尾先生は大学で福祉や介護を研究しておられますが、どのようなきっかけでこのお仕事をするようになったのでしょうか？

老年期の生活を豊かにする一助になりたいと考えて日本福祉大学に進学し、卒業後は特養に就職しました。特養で実習指導を担当するようになり、実習生が成長していく様子を見て、後進の教育に関わりたいと思うようになりました。また、介護福祉士養成教育の内容を変革していきたいという思いもあり、介護福祉士の養成校に転職しました。その後、もっと勉強するのを感じて大学院に進学し、修士課程を修了した後は大学で働いてきました。

— これまでの研究成果の幾つかを紹介いただけますか？

私は、主に「意味」や「介護福祉援助における価値」を巡って考察を重ねてきています。「意味」を巡る考察では、たとえば、他者がどのような意味を持ってある人の意識に現れるのかを検討し、認知症の人が抱える苦しみを「世界理解の齟齬から生じている」と考える立場を示してきました。また、生活行為の意味(たとえば、住居の意味)も検討してきました。「価値」を巡っては、「自立」や「自立支援」は介護福祉の中核的な実践価値として採用できないという立場

を示してきました。重度認知症の人の援助やターミナルケアにおいても自立や自立支援を目指すのでしょうか。私は、不適切だと考えます。介護福祉の中核的な実践価値は、最も深刻な要介護状態にある人に適用できるものであるべきだと考えます。現在は「健康で文化的な日常生活の回復・再構築」と「存在や人生の意味の発見・回復」だと考えています。

— どのような苦労がこれまでありましたか？

大学教員として最も苦労したのは、哲学的思考能力を錬成することです。極めて自然に納得してしまっている事柄を敢えて根源的に問い直し、考え直していく力を身につけたいと思ってきました。しかし、先達の業績が私の手には負えないほどに高度で、現在も四苦八苦しています。

— どのような時にこの仕事をしてよかったと思われますか？

教員としては、意欲的に学ぼうとしている学生と出会うととても楽しいですし、卒業生が元気に働いている姿に接すると「よかったなあ」と思います。福祉職としては、多くの利用者との出会い、ほんの一部ですがその方の人生と一緒に歩けたことだと思います。今も私の中には多数の利用者さんが生きていてくれます。



淑徳大学教授 西尾孝司先生

— ときわ園にはどのような魅力があるか教えていただけますか？

ときわ園は、場の雰囲気がとても柔らかいと感じます。これはときわ園で生活していく利用者の皆さんにとって非常に喜ばしいことです。また、働く職員にとっても喜ばしいことです。数字や形に表れるものではありませんが、大きな魅力だと思います。

— ときわ園には今後どんなことを期待しますか？

「灯台のような施設」を期待したいと思います。高齢者介護を巡っては制度改正が繰り返されています。利用者の状態像も変化しています。利用者や家族が期待する内容も変わっていくでしょう。そのような中で、あるべき特養の方向性を示し、他の施設の指針となるような施設となることを期待します。容易なことではありませんが、志は星に繋がりたいものです。福祉の実践者(実践組織)として、一人ひとりの利用者にとって「良い」とはということなのかを問い続け、実現に取り組み、発信をしていただくとありがたいと思っています。

西尾先生、この度はインタビューにありがとうございました。

授業風景

趣味は山歩き(白馬にて撮影)



地球沸騰化

今年の夏は特別に暑くなりました。世界気象機関などによると、7月23日までの世界の平均気温は16.95℃に上がり、地球がこれほどの暑さになるのは12万年ぶりだと指摘しています。千葉市でも7月の平均気温が28.3℃と1875年の統計開始以来最高を記録したそうです。国連のグテーレス事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と述べています。

地球が暑くなることによって、自然災害も増加していると言われています。9月には千葉県で台風13号による大雨の被害を受けました。4年前もありましたので、数年に一度発生していることになります。

防災機関は各家庭に、災害用備蓄を行ない、年に1度は使用期限をチェ

ックするよう勧めています。また、非常用持ち出し袋を準備し、避難する際にすぐ持ち出せるようにしておくこともできます。加えて、「思いも寄らないことがいつ誰にでも起きる」ので、自分は大丈夫と考えるのではなく、災害は起きるもので、自分も家族も巻き込まれる可能性があるという事実を認め、心の準備をしておくことも大切です。

ときわ園では、7日分の非常食と飲料水の備蓄、非常用発電機の設置など可能な限りの備えをしております。今後も気候変動の影響によって災害が増加することが予想されますので、これで完璧ということはないと考え、引き続き備えを強化していきたいと思っています。「備えあれば憂いなし」「聡明な人は危険に気付いて身を隠す」と言われている通り、常に良い

備えをしておきたいものです。

グテーレス事務総長は、「化石燃料の利益と気候変動に対する無策は容認できない。人類の責任だ」として各国に対策強化を訴えています。自国の利益最優先の考えがある限り難しいと感じてしまいますが、「地球沸騰」が収まる時が来ることを心から願うばかりです。



10年ぶりの介護職、Wワークでも安心して働ける夜勤補助「S勤」について

私は現在、Wワークという形態で、ときわ園の夜勤補助と、子どもに関わる仕事の兼業をしております。夜勤補助の職員は、ご利用者の夕食後から朝食前にあたる19時から翌朝7時30分が勤務時間となっており、通称「S勤(えすきん)」と呼ばれています。S勤の主な仕事はご利用者からのナースコール対応や、巡視・定時の体位変換、朝の整容や配茶となります。

また、入浴にかかわる準備や洗濯物たたみなども行っており、ご利用者の夜間帯だけではなく、日中も快適に過ごしていただくための役割を担っております。

10年ぶりの介護職は不安もあり

ましたが、昼間の仕事との両立が可能であり、今ではご利用者からの励ましや法人内の教育体制に支えられ、高齢者と子どもの仕事に関わる「二刀流」を大いに楽しんでい



大切な夜勤補助業務— 整髪

ます。今後もしもときわ園の仕事を通じて、人と関わる仕事の尊さや、思いやりについて学び、その素晴らしさを多くの方にお伝えしていけたらと思います。



大切な夜勤補助業務— 髭剃り

理事長
三枝 弘朋



夜勤補助職員
田中 孝潤



デイサービスの活動

残暑厳しい日々が続いておりますが、園庭のこもれびのもとで散歩を楽しみ、フロアでは日替わりのレクリエーションや近隣中学校の生徒達によるリモートコンサートを楽しんでいただいております。

訓練室では指導員による個別訓練にて目標達成に向け汗を流していただいております。

お誕生日には職員からバースデイソングとメッセージカードをプレゼント♪

これからも私たちと共に充実した穏やかな時間を過ごしましょう！



テラスのお花を觀賞



最高の笑顔♪



誕生日のお祝い！



リモートコンサート



こもれびのもと園庭の散策



ミニトマトの収穫



昇降訓練中



ボールを使った下肢筋力訓練



ラダーを使用して応用歩行訓練



イベント中は皆さんと盆踊り



オセロ勝負



秋祭り！



射的レク



メダカへ餌やり



花苗を丁寧に植え付け



花壇の水撒き



素敵な笑顔



よく狙って…



輪投げレク



お祭りレク



はっぴを着てお祭り気分

こもれびの湯でほっとするひとときを

デイサービスセンターこもれび
介護職員
大塚 真弓



今回は皆様に「こもれびの湯」をご紹介致します。「こもれびの湯」とは、デイサービスセンターこもれびのお風呂の名称です。一般浴、個浴、特浴の3種類があります。一般浴は、3つのシャワーがあり、広々とした大浴場です。個浴は、ご家庭のお風呂に似ておりますが、リフトに乗って湯船の出入りができます。特浴では、ストレッチャーに横たわった状態のまま、洗身や入浴ができます。この様に快適に入浴ができるよう、設備が整っております。また、デイサービスセンターこも

れびは、緑に囲まれた自然豊かな場所にあります。浴室、脱衣所は共に解放感のある大きな窓から広い空と緑を眺めながら入浴ができます。

デイサービスセンターこもれびでは、自立支援を大切にしており、ご自身でできることはご自身で行なっ

いただき、現在の身体機能を維持できるように支援しております。季節を感じていただけるように、5月には菖蒲湯、冬至にはゆず湯を楽しんでいただいております。

皆様もこもれびで、ほっとするひとときを過ごしませんか？



脱衣所



特浴のストレッチャー



洗い場

皆様の送迎をお任せください

業務サポート部門
日置 圭一



私たちの福祉施設では、ご利用者に快適に施設内で過ごしていただくために、送迎サービスを提供しています。送迎サービスとは、ご利用者の自宅から施設まで、あるいは、病院に受診していただく時にも、専用の車両で安全にお迎え・お送りするサービスです。車両は、車いすや介助器具に対応した広々とした空間を確保しており、運転手は福祉施設の職員が務めています。ご利用者の体調や状況に合わせて、柔軟に対応いたします。送迎サービス

は、ご利用者やご家族にとって、ご自宅と施設との往來を容易にし、安心感を与えるだけでなく、施設内の活動や交流にも積極的に参加していただくきっかけとなります。私

たちは、ご利用者にとって最適な送迎サービスを提供することで、福祉施設の魅力を伝えたいと思っています。是非一度、私たちの送迎サービスをお試しください。



車椅子出し入れの練習



送迎者出動

国際色豊かなときわ園

本館2階介護主任
鶴澤 和代



ときわ園では、2018年にベトナム人介護福祉士候補生を受け入れて以降、毎年外国人職員が入職しています。令和5年9月1日現在、ベトナム、インド、ネパール、ミャンマーの4か国、計11名の外国人が介護職員として働いています。この内、EPA（※1）による職員が4名、特定技能制度（※2）による職員が7名です。

外国人の職員は、日本で働くことについて慣れない点や分からない点も多くあります。そこで、生活の支援、事務手続き、介護技術、日本語支援について、施設全体で役割分担をして支援の体制を整えています。入職時には4週間程度のオリエンテーションを行って、ときわ園を知り、日本での生活に慣れてもらいます。その後、それぞれの配属先で介護の仕事が始まります。

自国で看護師の資格を取得している職員もいれば、介護現場で働くのは初めての職員もいます。どの職員も共通していることは、早く一人前に働

きたいという思いを持っていることです。そのため、専門的な知識や技術、そして日本語を家でも熱心に勉強をして、みるみるうちに上達していきます。半年後には日勤も夜勤も一人でできるようになります。

仕事の考え方、介護の考え方などについて自国とは違うことに戸惑ったり、悩んだり、ときには失敗をすることさえありますが、先輩職員と話をして理解を深めて、ときわ園の一員として頑張ってくれています。共通語はもちろん日本語です。外国人職員は、日本語を日々勉強して、頑張っています。

6月には、ベトナム人の職員が、自国を紹介する企画を立て、ご利用者の前でベトナムの食事や有名な食材、ベトナム語や有名な場所を紹介してくれました。ご利用者は興味を示され、話に聞き入っており、とても盛り上がりました。おやつにはベトナムのコーヒーを飲んでいただき、「今までに飲んだことない味」「おいしい

い！」などの声が聞かれました。職員も知らないことを教えてもらうことができ、素晴らしい国際交流、国際理解の場となりました。今後は違った国の紹介の企画も考えていきたいと思っています。

ときわ園で働く外国人の職員は、勤勉で真面目で、態度には見習うところが沢山あります。これからもお互いを尊重し、理解する姿勢をもって、協力してご利用者の生活支援をしていきたいと思っています。

※1 EPAとは、「Economic Partnership Agreement」の略称で、「経済連携協定」とも呼ばれます。特定の国や地域同士での貿易や投資を促進するための「条約」です。

※2 特定技能制度とは、日本の深刻な人手不足の状況に対応するため、一定の専門性・技能を持った即戦力となる外国人を受け入れることを目的とした制度のことです。

常盤会での取り組みを皆様にご覧いただくために～ホームページ委員会より～

デイサービスセンター
こもれび
機能訓練指導員
山岡 光太郎



当法人ではホームページ委員会として「常盤会」と「地域社会の皆様」との関係性を作るために様々な広報活動を行っております。「利用者が尊厳を保ち、安心して暮らせる福祉施設を目指す」という理念のもと、ご利用者により良いサービスを提供することができるように取り組んでおり、自立支援の様子や自然豊かな環境をオンライン上にて外部へ発信

しております。

ホームページ内では定期イベントや曜日別の空き状況等のお知らせはもちろん、各フロアでの日々の活動を随時掲載しております。その他各種SNSでも施設内の行事や四季折々の敷地内の風景、ご利用者の利用風景をご覧ください。（下記QRコード参照）遠方に住むご家族はご入所者の利用中の様子を見て安心でき



ホームページ委員会の会合の様子



天体観測技術は大きく進歩ではときわ園は？

施設長
酒井 章年



時々星仲間と望遠鏡を担いで星を見に行きます。私の天体望遠鏡は高校時代に買ったもの。ところが私の友人は最近、最新式の望遠鏡を手に入れました。パソコンの専用アプリでお目当ての天体を選択すると、望遠鏡が自動的にその天体に照準を合わせ、その後自動追尾してくれるのです。手動で天体の位置に合わせるのに四苦八苦し、その後もハンドルを手回して追尾しなければならない私の望遠鏡とは大きな違いです。さらに、友人の望遠鏡はパソコンの画面で天体を見ることもでき、定期的に画像を更新し光を蓄積しますので、天体全体

をはっきり美しく捉えることができます。短時間で効率よく労力をかけずに質の高い天体観測を行えるようになってこの様子を見、技術の進歩はここまで来たのだなと感心させられました。

ときわ園における私のビジョンは、

進歩した技術を十分に取り入れて、ご利用者にはより質の高いサービスを提供し、職員には負担を一層軽減した業務を担ってもらうことです。それを実現するには時間がかかります。しかし、諦めず一つ一つ前進させていきたいと思っています。



友人の“全自動天体望遠鏡”

パソコン画面の北アメリカ星雲

ご利用者に付き添うミョー職員（ミャンマー）

ご利用者と体操をするベ・ハン職員（ベトナム）

食事介助するヴァス職員（インド）



ベトナム語を紹介するレー・ハン職員



活動ログ

6/21

ベトナムの紹介

本記事でも触れましたが、本館2階でベトナムの紹介を企画しました。一方通行での紹介ではなく、ベトナム語の挨拶や国旗の色当てゲーム、国での正装当てゲームなど、みんなで考えたり話したり、慣れない言葉に戸惑いながらもカタコトで話してみたりしました。資料も二人のベトナム人職員が一生懸命作り、準備も

入念。パクチーやレモングラスなども持ち込み、香りでも異国を楽しめるよう工夫しました。美味しそうなベトナム料理を写真で紹介しましたが、写真だけでは物足りない～という方もいらっしゃいました(笑)。おやつにベトナムのコーヒーをふるまい、ご利用者の皆様に楽しんでいただけた1日となりました。



ベトナムの紹介

7/13

わたあめイベント

全国各地で夏祭りが再開されるようになりました。ときわ園でも夏祭り!とまではいかないですが、気分だけでも!…と、わたあめイベントを企画しました。久しぶりにわたあめの機械を動かしたので、最初のうちはなかなかうまくいかず職員も四苦八苦しましたが、何とかわたあめを作ることができました。甘くて良い香りがフロア内に漂い、懐かしい味と触感に表情も綻び、良い笑顔も見

られました。

日本でわたあめが広まったのは、明治時代後半～大正時代のこと。セントルイス世界博覧会で大人気となったわたあめが、日本にも持ち込まれて大人気となったようです。今食文化が多様化している中で、ご利用者に提供できるものも増えてきました。こうした歴史や背景を学びながら食べるのも、良いおやつタイムの一時です。



懐かしく美味しいわたあめ

8/18

夏だ!祭りだ!!

飾り付けや装い、音楽や飲食の香りや味など、様々な五感を使って、夏祭りの開催を介護職員発案のもと新館2階で開催。ご利用者はもちろん、外国人職員にも楽しんでもらいたいとの思いで、着物の着付けを、また浴衣に合うヘアアレンジも。とても可愛い艶姿の職員ができました。職員だけでなく、ご利用者にもハッピーを着てもらおうなどして、みん

なでお祭りの雰囲気を楽しみました。

飲み物も各種準備し、ジュースやコーラ、ラムネの他、何より一番人気なのはノンアルコールビールでした!! 入所前の過ごし方に少しでも近い生活や感覚を、施設の中でどれだけ提供できるのか、コロナ禍の中で制約がまだまだありますが、一人一人の職員が知恵を絞って、一緒に楽しむ毎日を作っていきたいと思ひます。



夏祭りの雰囲気を楽しむ

編集後記

2023年7月は、1880年以降で最も暑い1カ月だった — NASAは8月14日にそのような調査結果を発表しました。そして、「過去40年間の傾向を調べると、温室効果ガスによる人為的な温暖化が長期間続いている傾向は明らかだ」としています。暑さの原因はともかくも、確かに今年の夏は異常な暑さでした。幸いときわ園は冷房完備のためご利用者には快適な環境をご提供できたかと思ひます。ただ、新型コロナウイルス感染症対策のため、窓を幾らか開けて換気をよくしなければならず、暑さ対策とのジレンマを感じながらの毎日でした。引き続きご利用者の尊厳と安心を第一にしていまひます。

